同友会三つの目的

「よい会社、よい経営者、よい経営環境をめざす」

③同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

おきなわ同友会しんぶん
ニライ みらい

2021年（令和３年）12月号
No. 405
発行：沖縄県中小企業家同友会
編集：広報委員会

〒901-0152
沖縄県那覇市字小禄1831番地1　沖縄産業支援センター603号
☎098-859-6205㈹　FAX.098-859-6208
http://www.okinawa.doyu.jp
E-mail:doyu@okinawa.doyu.jp

第31回経営研究フォーラム

今だ！変化を進化に!!

～同友会理念の実践で社員と共にワクワク～

十一月八日、沖縄産業支援センターとロワジールホテル那覇、Ｚｏｏｍの併用にて、第三十一回経営研究フォーラムが二四六名の参加で開催されました。

今回の実行委員は、浦西支部役員と各支部から選出されたメンバーで構成され、座安孝明実行委員長（浦西支部長）を中心に、六月より議論を重ねました。Ｚｏｏｍ併用ということもあり、各会場のオンライン対応や、実行委員会の役割を入念にシュミレーションし、万全の体制で当日に臨みました。

第一部は、経営課題別に「人を生かす経営」、「共育・人材育成」、「事業承継・Ｍ＆Ａ」、「経営指針」、「経営環境対応力・連携の力」、「小規模事業の実践報告」の六つのテーマで分科会が開催されました（二・三面参照）。第二部は、香川同友会会員の江本手袋（株）・江本昌弘取締役を講師に基調講演を開催（左面参照）。

久しぶりにリアルで会場にて開催された第三部・懇親会には、参加申し込みを超える九十名が参加しました。「コロナ」での感染拡大防止対策で一時間の懇親でしたが、来年七月に沖縄で開催される中同協全国総会のアピール等が行われ、賑やかに盛況のうちに閉会となりました。

懇親会の様子

基調講演

自社の成長と街づくり「手袋職人の聖地」

江本手袋（株）　取締役　江本昌弘氏

座長の田部智章氏

講師の江本昌弘氏

第Ⅱ部の基調講演では、「瀬戸内バレアリック経営～労使見解における人間性の回復とは～」をテーマに、香川同友会の江本昌弘氏（江本手袋㈱・取締役）が基調講演をおこない、同じく香川同友会の田部智章氏（㈱タナベ刺繍・社長）が座長を務めました。

バレアリック経営とは、ＤＪ歴三十年の江本氏が大切にしているマインドで、地中海・イビザ島をバックに流れるバレアリックミュージックに端を発し、ただ単に音楽のジャンルに留まらず、瀬戸内の景色、そこに住む人の生活、ファッション、食べ物まで含めて「瀬戸内バレアリック」として捉え、提案しているものです。

基調講演の様子

江本氏は、百三十年続く東かがわの地場産業である手袋づくりが、八十年代以降、安い人件費を求めて海外生産へと拠点を移したことで、自社も取引先の倒産から経営危機に陥ります。

しかし、同友会や田部氏の支援のもと、「手袋職人の聖地を創る」ビジョンを掲げ、地域づくりの第二創業に取り組みました。

まず、地域や会社の歴史を紐解き、自分を知り、自己変革に繋げる実践の積み重ねから、自社の成長と街づくりが一体となる「経営指針」を成文化し、会社の体制を整え、ホームページや工房づくり、自身を手袋ＤＪとして誕生させるなど外部発信を始めました。

明確な目標・目的を地域全体にオープンに発信し、その共感が広がることで「瀬戸内メーカーズ」という大きな連携の渦が生まれ、参加するそれぞれの企業が、同じビジョンを共有して地域づくりに取り組みました。

二〇一八年には「職人を守り、育てる」をコンセプトに自社ブランド「佩（ハク）」を立ち上げます。それは、職人ひとりで完結する昔ながらの作り方や最高グレードの素材、二十五色でシンプルなデザインなど大手企業とは真逆な戦略です。

そして、ご近所からの信頼や支援を広げながら、クラウドファンディングに挑戦し、コロナ過での非接触をヒントした「ハンドソックス」を発売しました。「ハンドソックス」は多くのメディアが取り上げ、今年、新作を発表するまで事業として展開。さらには、五十年ぶりに職人として女性の新入社員を迎えることもできました。

今、服飾専門学校から自社の五十年キャリアを持つ職人が講師として迎えられ、仕事の誇りや喜びを語っており、新入社員の女性は、このイキイキと輝く先輩に憧れ、目標としています。

社員と家族、取引先、仕入先、顧客、そして経営者自身を含めて地域そのものであり、その地域を輝かせるのは、経営者と企業の責任であると強調されました。

最後に、座長の田部氏は「仲間一社再建できないようでは、同友会で学んでいる意味がない」と、江本手袋との関りを話し、地域の地場産業を変えるチャンスに遭遇し、経営者として大きなやりがいを得たことに感謝していると結びました。（事務局）

茶論

第一線の仕事をリタイアして、エブリサンデーの日々をおくっている昨今、遅ればせながらユーチューブにはまっている▼たいてい、海外に在留している日本人の発信しているユーチューバーの情報をみているのだが、我が国の主要メディアが報道していない、情報が取れて楽しい。特に米国の左翼化の具体例が目をひく。お隣のＣ国の影響がかなり大きいらしい▼その中で、あるユーチューバーが述べていた法則が面白い。独裁国家や共産主義国家が侵略してくる法則が三つあるという▼一つは、まず恐怖心を煽る、二つ目は分断を図る、三つ目は都合の悪い情報は流さないことで世相を変えていくらしい。なぜか、最近の世界情勢やコロナ騒ぎに似通うように思えて仕方がないのは私だけだろうか？この法則は、昔から、ずっと変わらないのだそうだ。特に、人種問題、思想問題、宗教問題、環境問題、コロナワクチンの同調圧力、などの分断は、まさに今、世界に起こっている事象に一致する▼マスメディアの報道を端から信じてしまう老人にはなるまいと考えてしまう（糸数哲夫）

第31回経営研究フォーラム
6つの経営課題を分科会で深める

第一分科会
中小企業の強さと素晴らしさを語る

４氏によるパネルディスカッション

第一分科会は、比嘉ゑみ子氏（中同協障害者問題委員会委員長）の「企業づくり、人づくり、地域づくりにつながる人を生かす経営の実践について」の問題提起を受けて、「人を生かす」五つの委員会の委員長によるパネルディスカッションが行われました。

それぞれのパネリストからは、「経営者と社員さんが共に学ぶことを通じて、人づくりをしていくことが中小企業の良さであり、素晴らしいところである。共に学ぶ場が人と企業を成長させる」（真栄田社員教育委員長）、「学校や親が安心して入社できるような環境と、雰囲気を大事にしている同友会の共同求人だからこそ、想いでつながり、愛情をもって新入社員を雇用していける」（森山共同求人委員長）、「障害者雇用を機に社内を整えて改善し、自分も会社も人も三方活かして、経営と社風をよくしていくのが、健障者委員会である」（仲本健障者委員長）、「歴史、文化などを学ぶことで、人の根っこの部分を成長させ、学ぶことの幸せと気づきを与えることで人づくりをしていく」（下田同友会大学運営委員長）、「労使見解を根幹に置いた経営指針作成を社員さんと共に作ることで、良い社風をつくることができる」（比嘉経営委員長）、と発言がありました。

最後にコーディネーターを務めた友寄副代表理事は「五つの委員会で連携し、総合実践することこそが人間尊重の経営へ繋がり、人間尊重の経営の実践こそが、強靭な企業を作ります。中小企業の強さと素晴らしさを自覚しアフターコロナ、ウィズコロナ等、変化する社会に対応し、共に進化していきましょう！」と締めくくりました。（有）大平シール印刷・比嘉一成）

第二分科会
お客様・社員を第一とする経営

第二分科会は㈱りっぷる社長の福原恵津子氏による「お客様を裏切らない覚悟、営業マンから経営者へ」と題して報告がありました。

福原氏は沖縄本島や東京で様々な職歴を経て、四十才の時に三人の子供を連れて宮古島に戻り、観光関連情報誌の営業職に就きました。

しかし、その宮古営業所は赤字続きで宮古から撤退する事になり、福原氏は今までお世話になっているお客様を裏切る事はできないという一心で、周囲が猛反対する中、自ら宮古営業所を買い取る決意をしました。

「コロナ」の影響が出る前の二〇十九年度（八期目）まで、毎年順調に業績を伸ばし続け、二〇二〇年度も売上半減を覚悟したものの、その減少幅は軽微に済む事が出来ました。

業績が芳しくなかった会社を福原氏は、前向きな姿勢と強いリーダーシップで経営者としての熱い思いと社員の思いが共有できる仕組みづくりに注力してきました。

報告者の福原恵津子氏

社員が仕事へ明確な目的を持つ事の重要性を認識し、整理整頓や挨拶発声といった基本姿勢のチェックリストづくりや、毎年ステークホルダーを招いて行う経営方針発表会の資料づくり、またベンチマーキングの活用や、どこでも情報共有できるクラウドサービスの利用等、社員の自主性を尊重し、その成長を促す仕組みづくりと、社内の共有一体化の仕組みづくりの両輪が相乗効果を生み出しています。

座長の㈱東和・新城浩司社長は、社長としての熱い思いと社員を大切にする福原氏の人間性が会社の一体感をつくり出しているとまとめました。

グループ討論では、自社の課題を再認識すると共に、どのような社風を目指すかという活発な討論を行う事が出来ました。（ブルーファーム・西川卓治）

第三分科会
今日とは違う新しい価値を生み出す！

第三分科会では一〇〇年二〇〇年続く事業承継について、有限会社ニヘーデービルの西平社長に御報告頂きました。

一〇〇年二〇〇年続く企業とは、人と人とが認め合う信頼関係による繋がりだと思います。世の中から求められている事を正直に実践し、社会貢献が出来て初めて、企業も利益を得る事が出来ます。

今日の西平社長の報告には、内部留保二年分、自己資本比率五〇％を確保し、それを未来へのコストにして、今日とは違う明日に新しい価値を生み出していこうと奮闘中だと報告が有りました。

報告者の西平守利氏

「企業には導入期、成長期、成熟期、衰退期が必ず有り、成長期と成熟期に移る時にどう手を打つか大事」その報告を聞かせて頂き、常に御客様目線で会社の価値を上げるための「社長の仕事」を改めて気付かされました。

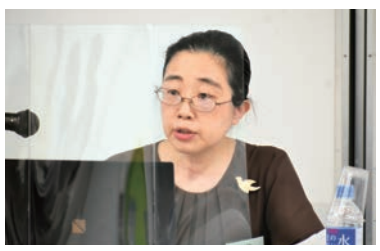
一〇〇年続く企業には、経営理念やビジョンが社員によって引き継がれています。西平さんの会社では人間尊重の経営を実践するために「西平塾」なるものを作り、社員と共に「なんの為に経営するのか」「自社の存在価値は何か」を一緒に考え、会社の将来像と社員個人の目標である「経済的に豊かになる」「心を整える」にベクトルを合わせる作業をしています。個人の目標を明確にするために「西平塾」では、論語に当たる哲学を西平社長自身が話し聞かせてソロバンで組立てさせ、数値で計画を作成させる。その哲学も基本は「自分と周りの人を幸せにしているか」「他人を不幸にしていないか」「それをやる事で自分も周囲も成長するのか」常に人間が大事。まさに同友会の経営指針を社員と共に実践している事が良く解りました。

会場の様子

又、未来予想図には海洋からマイクロプラスチックを回収する環境ビジネスや、海洋資源を利用した発電エネルギー事業が上げられていて、世の中が求めている要望であり、社会貢献に寄与する事が世界からも信頼される一〇〇〇年も続く企業になれるのだと学べた報告でした。（㈱機工・田場英行）

第四分科会
「経営指針」で社員と目的を共有する

第四分科会では、㈲長門屋（仏壇・仏具取扱）代表取締役の笹林陽子氏（山形同友会）に「社員と共に歩み　経営理念の想いを地域へ広げる～突然の事業承継で専業主婦から経営者へのストーリー～」のテーマで報告頂きました。


報告者の笹林陽子氏

笹林さんは、急に会社を継ぐことになり、どうしたらいいか分からない状況の中、同友会に入会。「経営指針を作る会」を受講します。

その中で、「自分たちは何を提供しているのか？」という問いに、時代が変わっても求められる普遍的な仕事の本質を問い続け、「命の繋がりに想いを馳せて、心に平安を求める人の気持ち」は変わらないと思い至ります。また、社員さんついても考え、「自分がすべて受け入れて描く想いを形にして周りに伝えれば、前に進める」と思い至ります。

その想いを描いた経営指針書を初めて発表した時、社員から「理念はそれでいいが、今まで通りに仕事をするだけ」と発言が。目的が共有されていない社員にとって、仕事とは作業のことと実感し、目的を共有するため、あらゆる方法で社員に語りかけ意見を求めました。

経営指針に取り組んで七年。ブランディング、自分たちが数字をつくっているという意識作り、お客さまとの関わり作りなど、多くのことに社員と共に取組んでいます。

取組みがうまく回り出すと、みんなが初めから推進していたようなムードになるのが変化できた目印とのこと。

この目印を見逃さず、また、ムードを感じられるまで取組みを継続しましょう。（三重金属工業㈱沖縄事務所・上地裕介）

第五分科会
企業の強みを活かし 環境変化に対応

３氏による報告

第五分科会は、「あなたの会社は生き残れますか？～中小企業の役割と存在価値～」のテーマでパネルディスカッションが行われました。

はじめに、赤嶺剛副代表理事より中小企業憲章制定の説明から「中小企業の日」制定までの背景と経緯の説明があり、全国で展開されている中小企業の日にちなんだイベントを紹介したうえで、来年のイベントをどのように企画し、自社の経営に結び付けてどう活かしていくのかという問題提起がありました。

つづいて、㈲沖縄北斗の大城照政社長から、新商品の開発を基にした異業種企業との連携による販路開拓型企業連携、㈱丸元建設の糸数幸恵社長からは、ジェンダー問題の解決を軸とした同業種との連携による課題解決型企業連携、最後に㈲大宮工機の宮城光秀社長からＩＴや障がい者雇用を活用した業務遂行型企業連携について、それぞれの会社の具体的な事例をあげながら報告がありました。

グループ討論では、「あなたの会社が生き残るために、どう連携していきますか？」のテーマで、活発なグループ討論が展開されました。

コーディネーターであるオフィス星崎の星崎浩二社長が「それぞれの企業の強みを活かした企業間連携を模索しながら、外部環境の変化に丁寧に対応していくこと、想定外の変化にも対応できる準備をしておくことが企業として生き残っていくために必要である」とまとめました。

ご参加いただいたメンバー、スタッフの皆様誠にありがとうございました。（先嶋産業㈱・友利博明）

第六分科会
人の心に寄り添い、ケアするスペシャリスト

第六分科会は「激動の時代に生き残る一人企業のビジネスモデル～新たな視点で即行動 想いを形にする力～」と題して、アロマリライフ代表 黒岩珠枝氏、助産院パピヨン院長 伊佐恵莉可氏の報告がありました。

初めに、長女の出産を機に看護師から助産師となった伊佐氏は、二〇二〇年に助産院パピヨンを開院し、ビジョンの実現のために同友会へ入会。

報告者の黒岩氏（中央）と伊佐氏（右側）

難産、安産、死産といった自己の経験と、十代での出産や、障害があって生まれる子など、産前・産後の継続的なサポートの必要性を感じ、サポートの行き届かないところに目を向け、新しい体制のケアを行っています。

次の報告者の黒岩氏は、出産後のメンタル不調により、自宅から出られなくなった時、出張アロママッサージで、心のもやが晴れた経験がきっかけで、同じような人を助けたいという想いから起業します。

無謀にも一度に七名の採用をするも、大震災、家族の大病、同業者の参入による売上減、次第にメンタルまで落ち込み、借入をする状況になりました。そのとき経営をしっかり学ばなければと同友会に入会します。

同友会では相談相手ができ、「社長・社員共育塾」で経営者としての考え方の違いを発見します。

また顧客のニーズを知り経営戦略を変更したことで、利益率が向上したと報告がありました。

お二人に共通しているのは「人の心のケアをする」という仕事で、自らの体や心を守り、周りに感謝をして生きること。

経営指針作成講座で作成した創業の想いが詰まった経営理念に日々立ち返り、「自身も周りの方も幸せにしたい」という想いが伝わった報告となりました。（㈱リウデン・謝敷千恵子）

八重山支部十月支部例会
社員から社長へ ～葛藤から新規事業成長まで～

報告者の山城忠雄氏

十月二十一日に八重山支部十月支部例会が島料理楽園で開催され、新会員やゲスト、含め二十一名が参加しました。

今回の報告者は八重山支部副支部長で八建実業㈱の山城忠雄社長。現場でたたき上げ、社員の立場から社長となった経緯や、社長就任時、会社の借金や経営者保証を背負うことの葛藤、それを乗り越え覚悟を決めたことを話しました。また、自身が中心となり、新規事業として取り組んだお墓工事が会社を支える事業として成長していることと、社員教育の課題や事業承継、これからのビジョンなどについて、座長の仲間氏と対談形式でざっくばらんに報告しました。

報告終了後は懇親会が行われ、例会の感想発表や十一月の支部三十周年記念事業のＰＲを行い、久々のリアルでの交流を堪能しました。（事務局）

第二十期社長・社員共育塾第三講
絶好調からどん底へ、そこから見えたもの

講師の橋本明元氏

十月二十六日、沖縄産業支援センターとＺｏｏｍ併用で社長・社員共育塾第三講が開催され、受講生五十九名を含む八十一名が受講しました。

今回の講師は㈱王宮（道頓堀ホテルグループ）の橋本明元専務。インバウンドに特化した戦略で全国的に注目を集め、絶好調だった道頓堀ホテルグループ。しかしながら緊急事態宣言下、ホテルも営業自粛を余儀なくされます。終わりの見えないコロナ禍の中、何を考え、どのように行動してきたのかを具体的に報告しました。

橋本氏は「正直心が折れそうになった」と語るほど、経営状況は厳しいものでしたが、「社員には絶対に幸せになってもらいたい」という想いを原動力に、「コロナのせいではなくコロナのおかげ」と発想を転換し、社員を解雇することなく、社員研修を充実させ、サービスの質の向上や、新たなサービス開発に挑戦していきます。

橋本氏の報告後、同社が昨年、那覇市にオープンした沖縄逸の彩温泉リゾートホテルの取り組みを、従業員（立ち上げメンバー）の陳氏が報告。イキイキとホテルの魅力を語る陳氏の表情から、社員を大切にする同社の社風が垣間見えました。（事務局）

南部支部交流企画　与那原まちあるき
聞得大君の物語をめぐる

琉球政府の御新下りの忠実と与那原に受け継がれた伝説をめぐる与那原まちあるきが十一月七日に開催され、十二名が参加しました。

まちあるきは、ガイドの知念さんより歴史や背景の説明をうけながら、東御回りスポットの親川（ウェーガー）からスタート。いくつかのアイテムが隠された石畳を通り、国王や聞得大君の久高島参詣の発着地でもあった御殿山（ウドゥンヤマ）へ。山原船、樹齢二百年余りの大赤木（オオアカギ）、久葉堂（クファドゥ）を回り、それぞれの歴史を学びつつ、運玉森の険しい山を登り三津武嶽（ミテンダキ）に到着しました。三津武嶽は、聞得大君の亡骸が葬られていると言われており、子宝や健康祈願に参拝者が絶えないスポット。ウォーキングを楽しみながら歴史を学ぶことができ、素晴らしい休日となりました。（岩田税理士事務所・岩田進司）

参加者の集合写真

文進印刷株式会社
本　社／〒901-0416　沖縄県島尻郡八重瀬町字宜次706－4
TEL (098) 996-3356 (代)　FAX (098) 996-3357
那覇営業所／〒902-0074　沖縄県那覇市字仲井真201番地18
TEL (098) 855-2323 (代)　FAX (098) 996-3357
浦添営業所／〒901-2111　沖縄県浦添市経塚811-14
TEL (098) 879-9303 (代)　FAX (098) 996-3357
宜野湾営業所／〒901-2214　沖縄県宜野湾市我如古3-11-5 1F
TEL (098) 898-1055 (代)　FAX (098) 996-3357
沖縄営業所／〒904-2165　沖縄県沖縄市宮里２丁目１番３号
TEL (098) 937-8607 (代)　FAX (098) 996-3357
糸満営業所／〒901-0303　沖縄県糸満市字兼城473-10 グレイスコート102
TEL (098) 994-5777 (代)　FAX (098) 996-3357
うるま営業所／〒904-2215　沖縄県うるま市みどり町3-19-5
TEL (098) 973-5676 (代)　FAX (098) 996-3357
平成19年２月６日、個人情報保護のための仕組みである、JISQ15001：2006（プライバシーマーク 認定番号24000306 (07)）を取得いたしました。
＜南部支部会員＞

北部支部十月支部例会
事業再構築補助金申請・採択のポイントを学ぶ

報告者の屋部憲史朗氏

報告者の中本泰一郎氏

十月二十一日、ゆがふいんおきなわにて、北部支部十月支部例会が開催されました。

今回の例会は、一般社団法人名護青年会議所と合同で実施し、「事業再構築補助金活用報告」というテーマで開催されました。報告者として、実際にこの補助金が採択された実績を持つ、㈱ハートボイルド代表取締役社長　屋部憲史朗氏、南西食品㈱代表取締役社長　中本泰一郎氏、補助金申請サポートの専門家であるＲｅＨｕｇ㈱代表取締役 勇者 本永敬三氏、尾関中小企業診断士事務所　尾関亮氏の四名をお呼びし、報告を聞きました。

屋部氏、中本氏のお話は実体験に基づくお話で、どういった部分に苦労したかなど、採択を受けるまで専門家の方々との相談内容をふまえた具体的なお話で、参加者の皆さんにもそのポイントが伝わったようでした。

専門家の方々のお話は、他の会社の採択事例などを交えながら、事業再構築補助金のその申請について詳細にお話していただき、その難易度が伝わりました。

グループ討論では、報告で得た学びを交えて活発な議論が行われ、実りある例会となりました。

（㈱琉球若草・大森陽介）

ゲストを交えてのグループ討論の様子

若手経営者部会うりずん クルージングＢＢＱ＆卒業式
卒業生の感動的な挨拶で無事終了

船上での集合写真

若手経営者部会うりずん主催のクルージングＢＢＱ＆卒業式が十月九日（土）に開催されました。

コロナの影響で一時延期ということもありましたが、無事卒業式を行うことができました。

今回は、今までと一味違うサンセットクルージング（水中観光船 オルカ号：那覇市通堂町）で開催したため、会員の多くが家族同伴での参加となりました。

子供も大人も大満足の水中観光、魚への餌やりや、夕日が落ちる景色を眺めながらお酒とおいしい食事を堪能でき、終始笑い声の絶えない楽しい卒業式となりました。

卒業生の感動的な挨拶と委員会ＰＲ、自社ＰＲタイムを行った後のビンゴ大会も大盛況♪ビンゴ大会の素敵な景品は、会員からの提供が多く、当選した会員の喜ぶ姿も見ることが出来るのもまた素敵な時間となりました。（有）おおば・大庭恵梨花）

ビジネス連携部会「ゆいま～る」スノーケリング体験＆海洋環境学習会
沖縄の海（観光資源）再発見！

スノーケリング体験を満喫する参加者

十月二十八日、㈱シーサー様のご協力を得て、スノーケリング体験及び海洋環境学習会を行いました。

スノーケリングを体験した事によって、改めて沖縄の観光資源である海のレジャーの楽しみ方や、奥深さを体験する事が出来ました。

沖縄本島は四方を海に囲まれており、今ではハワイにも迫る勢いで、観光客に選ばれる観光地であります。ですが残念な事に、沖縄に住んでいる私達自身がこれら観光資源の良さを知らないでいる現状があります。沖縄には海という立派な観光資源があるということを確認するため、会員企業様と一緒に、今後もこの様な体験と学習を行っていきたいと考えております。次の機会には、是非皆様ご参加ください。（有）リサイクルセンター沖縄・玉城栄）

きらりと光る会社発見フェア －Ｊｏｂｗａｙ沖縄－

十月二十七日、沖縄コンベンションセンターの会議棟にて、「きらりと光る会社発見フェア－Ｊｏｂｗａｙ沖縄－」を開催しました。

沖縄二十二社、東京二社の計二十四社に、五十二名の大学生、短大生、専門学生、高校生の学生さんが参加されました。

新型コロナの影響で、「合説」が例年通りに開催されないことや、オンライン授業が続き、先生方からのフォローや友達との意見交換もなくて就活の仕方がよく分からず、この時期でもまだ進路が決まっていない学生さんもたくさんいます。

「きらりと光る会社発見フェア」は沖縄同友会が主催する合同企業説明会です。今年度もコロナの影響で、延期や中止などが続きましたが、沖縄コンベンションセンターで四回、またオンライン合説も開催することが出来ました。

沖縄 22 社と東京２社が参加

また先生方との懇談会なども開催し、各学校との連携づくりにも力を入れています。来年度も引き続き取り組みますので、ご興味のある企業は、事務所までご連絡下さい。（事務局）

沖縄銀行　OFG おきなわフィナンシャルグループ

まちかどバンク No.22

●株式会社おきなわフィナンシャルグループの設立について

本年７月10日に創立65周年を迎えた沖縄銀行は、めまぐるしく変化する社会構造の変化に適応するため、2021年10月１日「株式会社おきなわフィナンシャルグループ」を設立し、持株会社体制へと移行いたしました。

●ブランドスローガン

おきなわフィナンシャルグループは、「Create Value & Innovation ～おきなわの“新しい”をともに創る。～」をグループのブランドスローガンに掲げました。事業環境が変わり、変化に適応していく中においても、私たちには沖縄銀行創業以来、受け継いできた変わらない価値観があります。お客さまへ寄り添いたい、期待に応えたい、地域社会の価値向上に全力を尽くしたい。その価値観をもって、新たな発想とともに挑戦してまいります。

那覇支部十月支部例会
同友会での学びを活かし一〇〇年企業を目指す！

報告者の儀間奈津美氏

十月十三日、Show&Restaurant SunSeaN―三線―とZoomの併用で、那覇支部十月支部例会が六十一名の参加で開催されました。

十九三三（昭和八）年に儀間さんの祖父が創業した㈱儀間をお父様が承継し、グループ会社を立ち上げました。儀間さんは、三人姉妹の長女として生まれました。アメリカ人と結婚して海外移住を経験し、ご主人が横田基地に赴任中、ご自身も外資系コミュニティバンクで総務の仕事に就いていました。

その頃、父から不動産部門を任せたいから帰ってきて欲しいと何度か電話があり、会社を継ぐことを決意します。現在グループ会社六社のうち三社を儀間さんが経営しています。

㈱儀間不動産は、主に不動産管理業務を担っており、就任当初は社員に連れられて現場に出る毎日でした。社長のやるべき仕事がわからずに、父からは、「仕事は楽しくやろう。膿は早く出しなさい。決断しなさい」と言われ続けていました。

二〇一六年に同友会へ入会し、学びを実践しようとしますが、社員がついてこずに、まだ経営者として未熟だと反省します。それから五十二期の決算資料を見て百年企業を目指そうと考えるようになりました。まず社員の年収をアップし、収益物件を増やす事。やるべきことをきちんとやれば、必ず業績は上がると信じて、同友会の例会で学んだ事や、尊敬する先輩経営者に刺激を受けながら、感謝と即実行をモットーに日々取り組んでいます。（事務局）

第二六期同友会大学 第十・十一講
「琉球王国への誘い」・「文化を基調とした地域おこし」をテーマに学ぶ！

第二十六期同友会大学第十講が十一月五日に首里城にて開催されました。「琉球王国への誘い」をテーマに、琉球歴史・文化話半学会の古塚達朗会長が講師をつとめました。

受講生、など参加者は守礼門に集合し、園比屋武御嶽石門（世界遺産）、歓会門、西のアザナなど、順を追ってじっくりと解説を聞きながら首里城を回りました。

首里城の構えや瓦・門のつくり、石垣など由来や琉球の歴史を紐解き、古に想いを馳せながら、当時いかに貿易をしたか、侵略に対して抵抗したか。教科書では学べない部分も聞くことができました。

古塚氏より説明を受ける受講生

第十一講は、十一月十二日に沖縄産業支援センターにて「文化を基調とした地域おこし～老いも若きも未来の宝～」をテーマに南島詩人の平田大一氏が講師をつとめました。

小浜島から東京に出たものの、その苦しさから千七百編もの詩を編み出し出版。

地域おこしでは、小浜島で取組んでいる「KB84」や、うるま市で行政を巻き込んだ「肝高の阿麻和利」は今年二十一年目を迎え、初期の頃のメンバーが支える側に回り、継続の力になっていると事例を交えて語りました。

グループ討論では質問が多く出され、時間を超過しましたが、最後に平田氏の太鼓と歌で大いに盛り上り、締めくくりました。（事務局）

講師の平田大一氏

共に働き、共に喜び合う新たなスイーツ文化を目指して

今回は八重山支部に十月に入会した、MantaFrog GateWay（同）の石垣島クッキーを紹介します。

代表の橘田さんは元々、東京都小平市の職員で民間企業で勤めた経験はありませんが、優しい表情が印象的で、心臓に障がいがあるハンデをものともしない熱いエネルギーと行動力に満ち溢れた方です。

同社は八重山・石垣で新たなスイーツ文化を創造しながら、障がい者施設と連携し、観光で求められる人材を育成し、SDGsの目標に沿って地域に貢献する店づくりを目指しています。会社名とロゴにもしっかりと会社の理念が表現されています。

橘田真 氏

「石垣島に多く生息するマンタが群れをつくり助け合いながら、未知の世界に無限の可能性を秘めた大海原でたくましく悠々と泳ぐ姿に、私たちの大きな夢を乗せます。そしてマンタのしっぽにつかまっている八重山アオガエルは、八重山の自然の営みの中で、しっかりと息づいている生物です。この二匹がめぐり逢い、同じ八重山で協力し合い、助け合ってこれからの未来を切り開く姿をロゴに託しました」と橘田さんは言います。

石垣島クッキーは、プロの味にこだわり、新高輪プリンスホテルやパークハイアット東京、浦和ロイヤルパインズホテルなどで腕を振るった朝田晋平シェフが、特注でレシピを制作し、同じ八重山支部で障がい者支援を行う㈱ゆにばいしがきに製造を委託しています。

お店の外観

沖縄、八重山、石垣島の素材を使用し、無添加にこだわる風味豊かなクッキーとなっています。

「クッキーを食べた人がみんな笑顔になり、関わった人びとが幸せになってほしい」と語る橘田社長。同友会MONEY券の取り扱い店舗にもなっていますので石垣島を訪れる際は、ぜひ、笑顔あふれるお店にお立ち寄りください。（事務局）

《会社概要》
MantaFrogGateway（同）
橘田　真 氏
〈八重山支部〉
所在地／石垣市登野城3-3 さだとしビル1-B
ＴＥＬ／0980-87-5512
事業内容／小売物販（ソーシャルビジネス）
MantaFrogCafe石垣島クッキーというブランドを通して、障がい者施設等の支援

コースNo. 306

組織の中核人材になるための「自己革新」講座！ NEW

若手リーダー養成研修
（係長・主任向け）【沖縄教室】

研修のねらい
この研修では、若手リーダーが、周囲に積極的に働きかけ、チームの目標達成を推進していくための、上司の補佐や後輩・部下指導のスキル、チームでの仕事の進め方を学びます。また、将来、組織の中心となるために、「理想のリーダー像」を目指した今後の行動計画を考え、組織の中核人材としてのレベルアップを目指します。

研修期間
2022年　【2日間】
2/15(火)～2/16(水)

会場
沖縄産業支援センター
沖縄県那覇市字小禄1831番地1

対象者
管理者候補（係長・主任）
定員　30名
受講料　22,000円（税込）

講師紹介（敬称略）

株式会社ジャンクション
代表取締役
佐々木　茂
（ささき しげる）
上智大学文学部卒業後、株式会社福武書店（現ベネッセコーポレーション）、家業の経営を経て独立。「動かなければ何もはじまらない」、「抽象論を具体論へ」という信条のもとに、中小企業から上場企業まで幅広い経営支援の実績を有している。中小企業診断士、(独)中小企業基盤整備機構九州本部チーフアドバイザー、国土交通省建設業経営戦略アドバイザー。

申込書は人吉校ホームページからダウンロードできます。必要事項を記入の上、FAXにてご送信ください。また、人吉校ホームページからはオンラインでのお申込ができます。

Be a Great Small.
中小機構
中小企業大学校 人吉校
TEL：0966－23－6800（平日9:00～17:30）
FAX：0966－22－1456
お気軽にお問い合せください。
人吉校　検索

2021年７－９月期景況調査の結果について（見解）

コロナ不況長期化で景況感は再び悪化
収束に期待も、先行き不透明

沖縄県中小企業家同友会は、会員企業から抽出した457社を対象に９月１日から９月24日の期間、「７－９月期景況」についてのアンケート調査を実施しました。その結果について見解を発表します。
（本文中、特に断りのない限り前年同期比です）

回答企業数

（１）回答企業
139社　回答率　30.4%

（２）業種別　（　）は実数
製造業　14.4%（20）　建設業　12.2%（17）
流通・商業　28.1%（39）　サービス業　39.6%（55）
情報　5.8%（８）

（３）規模別　従業員数
＜正従業員＞平均　30名　＜臨時従業員＞平均　11名

①業況判断DIは前期調査から（△11.0⇒△28.3）で前年同期と比べてわずかに改善するも、再び悪化し引き続きマイナス超。
②売上高DIは建設業以外の業種で大幅に悪化し、情報は水面（0）からマイナス超に。建設業は大幅に改善し、水面（0）に。
③経常利益DIは全ての業種で後退・悪化し、情報は水面（0）から大幅なマイナス超に。
④資金繰りDIは情報・サービス業以外の業種で後退・悪化し、製造業はマイナス超に転化。情報・サービス業で改善。
⑤経営上の問題点は前期に続き「民間需要の停滞」、力点は「新規受注（顧客）の確保」が第１位。
⑥先行きは情報以外の業種で改善するもマイナス超。情報はさらにマイナス超となる見通し。

	業況判断				売上高ＤＩ				経常利益ＤＩ				資金繰りＤＩ			
業種	2021 4－6期	2021 7－9期	増減	2021 10~12見通し	2021 4－6期	2021 7－9期	増減	2021 10~12見通し	2021 4－6期	2021 7－9期	増減	2021 10~12見通し	2021 4－6期	2021 7－9期	増減	2021 10~12見通し
全業種	△11.0	△28.3	−17.3	△21.0	△9.0	△25.2	−16.2	△18.9	△11.9	△30.6	−18.7	△20.3	14.2	9.3	−4.9	−
建設業	△16.6	△11.8	+4.8	△5.9	△36.8	0.0	+36.8	△5.9	△22.2	△31.2	−9.0	△6.2	42.0	23.5	−18.5	−
製造業	△9.5	△50.0	−40.5	△20.0	△4.8	△25.0	−20.2	△15.0	△20.0	△47.4	−27.4	△15.7	0.1	△20.0	−20.1	−
流通・商業	△12.5	△31.5	−19.0	△28.9	△5.0	△38.4	−33.4	△29.0	△7.7	△35.2	−27.5	△33.3	42.5	33.4	−9.1	−
情報	6.6	△37.5	−44.1	△50.0	0.0	△37.5	−37.5	△50.0	0.0	△57.1	−57.1	△57.1	33.3	37.5	+4.2	−
サービス業	△13.3	△21.8	−8.5	△16.4	△6.5	△21.8	−15.3	△12.7	△11.5	△18.1	−6.6	△12.7	△13.1	△5.4	+7.7	−

わが社のホープ　第303回

さくがわ司法書士事務所
司法書士　佐久川 聡 氏

地域貢献・仲間づくりからビジネスの発展へ

佐久川聡氏

今回は、南風原町役場より徒歩三十秒の場所にある「さくがわ司法書士事務所」にお伺いしました。

佐久川氏は二〇〇七年に司法書士として登録して暫く那覇の司法書士事務所に勤務し、二〇一四年一月より出身地である南風原町の現在の場所にさくがわ司法書士事務所をて開業しました。

当初は従業員と二人からのスタートでしたが、現在は四名のスタッフを抱える事務所として事業展開しています。

事業内容は「相続・不動産登記」「法人登記」「裁判・債務整理手続き」「成年後見業務」の四本柱で地域に根差した活動です。

同友会入会は那覇の事務所に勤めている時で、当時、那覇支部北地区の副地区長を経験しています。

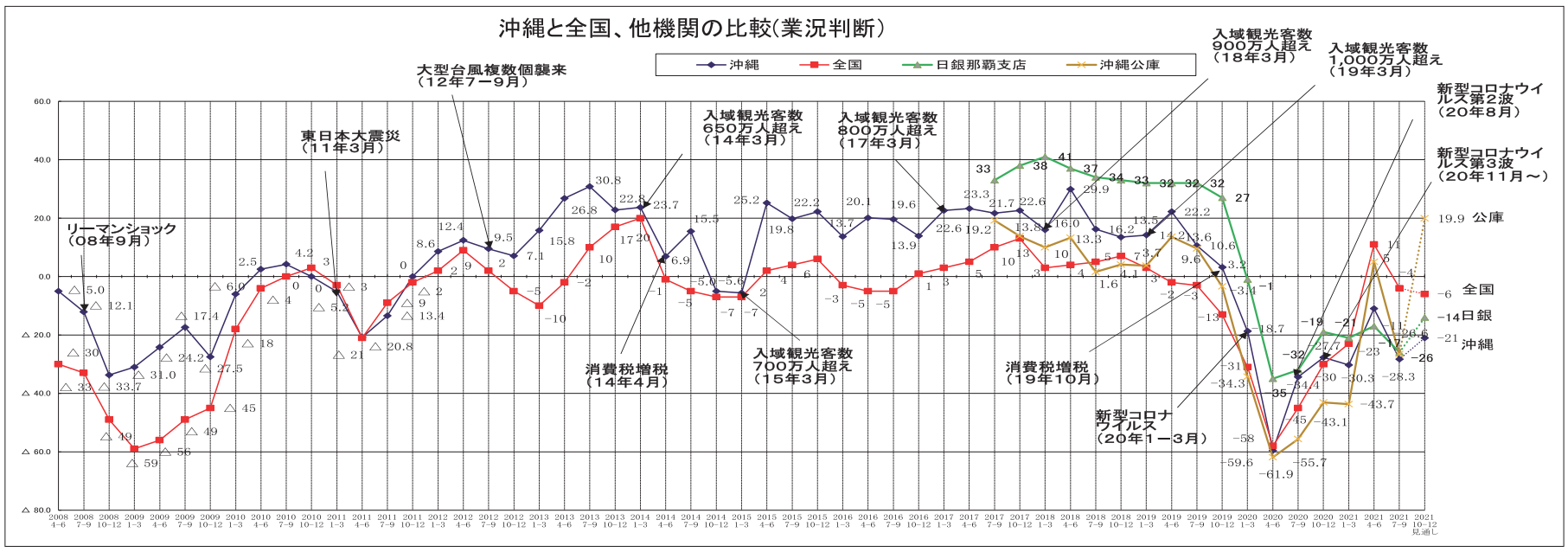
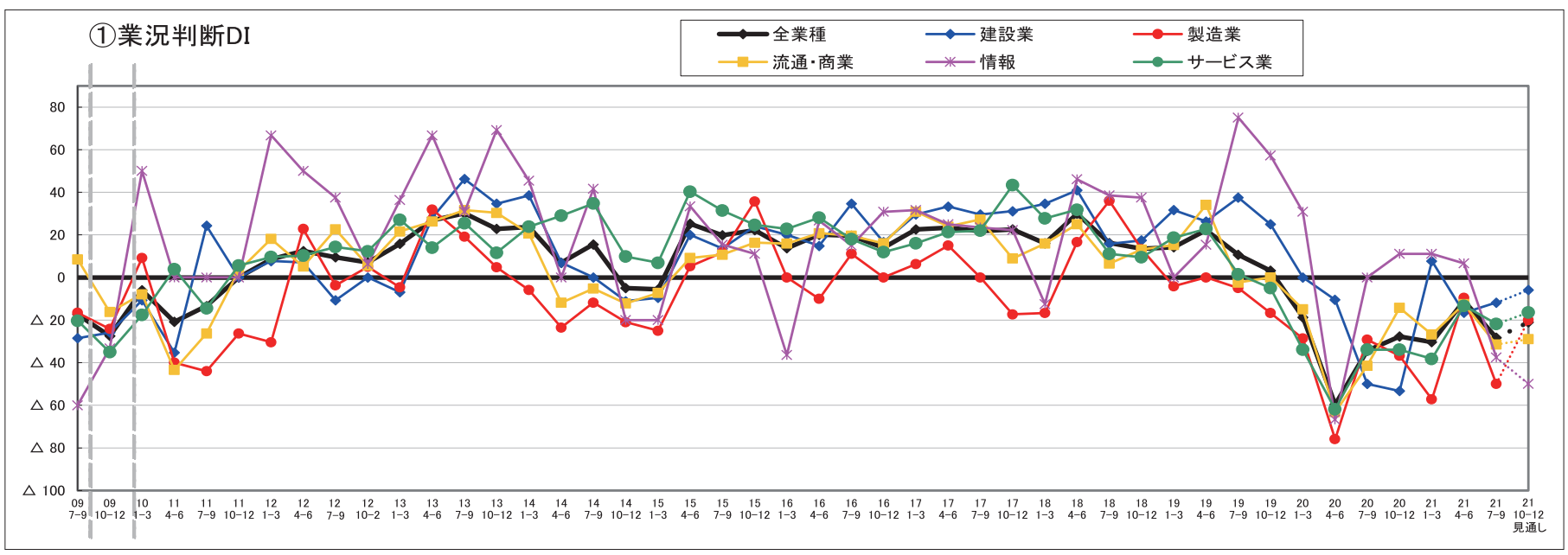
同友会は経営理念の作成、言葉の成文化を意識されていて、また、例会での学びをグループ討論で共有する事が印象に残っています。

現在は地域に根差した活動、商工会青年部で同年代の方と地域貢献・仲間づくりからビジネスの発展へとつなげるといったビジネススタイルを確立されています。

また、地域の範囲を広げ、お隣りの八重瀬町や南城市にも役所発行の広報誌を活用しながら、前述した四本柱の法律相談所としてスタッフと共に活動を広げています。

司法書士という仕事柄、他の士業の方とも連携を取りながら、顧客の問題可決に取り組んでいます。

今後の展開をお聞きすると、司法書士以外の資格も活用しながら、地域活動の中で培ってきた人脈を活かし、司法書士以外の事業展開もしたいと語ります。

それでも最後には、南風原の地域に根差した法律問題解決事務所として「地域のために恩返ししたい」と力強い言葉で締めくくりました。（あいエフピー・大浜博文）

《会社概要》
さくがわ司法書士事務所
司法書士　佐久川 聡 氏
〈南部支部〉
所在地／南風原町字兼城683-12 仲里ビル3-A
ＴＥＬ／098-889-8831
事業内容／「相続・不動産登記」「法人登記」「裁判・債務整理手続き」「成年後見業務」